

【学生による ESD 学習支援活動】
奈良市立佐保台小学校 野外活動 支援報告書

幼年教育専修 学部 1 回生 井原奈佑
技術専修 学部 1 回生 熊野里沙

1. 実施日 令和元年 6 月 26 日 (水)
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 谷垣徹 (大学院生)
市川侑季、假屋美有、柳川莉沙、稲富麻莉、井原奈佑、熊野里沙 (学部生)
岡本彩希、石崎桃花、井奥康樹 (奈良ユネスコ協会青年部)
奈良市立佐保台小学校児童、引率教員 複数名

4. 活動支援内容

令和元年 6 月 26 日 (水)、奈良市青少年野外センターにおいて、奈良市立佐保台小学校第 4、5 学年の野外活動が行われ、本学学生 7 名、奈良ユネスコ協会青年部 3 名が、オリエンテーリング、野外炊飯、キャンプファイヤーなどの支援を行った。

今回の野外活動支援を以下の 2 点で振り返る。第 1 に支援する立場としてどこまで手助けをするのかについて、第 2 に状況に応じた的確な判断をする重要性についてである。

第 1 の支援する立場として、どこまで手助けをするのかについてである。主に野外炊飯の時、火の扱いの多くを学生が行っていた際に、児童たちに多くのことを体験させてあげるべきだったと感じた。しかし、どこまで手助けをするのかという線引きについて考え、判断するのは難しい。そして、児童の様子を観察しながら臨機応変にそのような判断ができるようになるために、これから多くの経験を積んでいかなければならないと感じた。

第 2 の状況に応じた的確な判断をする重要性についてである。今回は野外炊飯後に、入浴、キャンプファイヤーという順で予定を組んでいた。しかし天候が悪くなりそうなため、入浴とキャンプファイヤーを入れ替えることになった。先生方はこの変更を出すまでに、雨雲を携帯で何度も確認していた。そのおかげで入浴中には雨が降ってきたが、キャンプファイヤー時には一切雨が降らなかった。このような的確な判断があるからこそ、児童は最大限に楽しむことができるのだと感じた。これから自分たちが、さまざまなイレギュラーに応じて判断を下す際に、状況を把握して、的確な判断をしていく必要があると感じ、その重要性について気づくことができた。

以上 2 点が、今回の野外活動支援を通じて特に感じたことである。実際に児童たちと関わることで見えてくる発見がたくさんあった。児童たちと関わることで、将来役に立つ経験にもなり、なにより自分自身の成長につながる。そして、この支援を通して気付いたことや反省点を、これからどう活かしていくかが大切だと感じた。このような貴重な体験を今後も積んでいきたいと思う。



キャンプファイヤーの様子